

「善き未来をひらく科学技術」選考講評

選考委員長 大垣 眞一郎

「善き未来をひらく科学技術」の研究助成プログラムは、今回が3回目の募集でした。善き未来の実現へ向けて、将来の社会課題の解決に貢献する革新的な科学技術研究の構想を求めたわけです。

未来社会の構想の提案と、研究者個人の独創に基づく新しい分野を切り拓く革新的な研究の提案、この2つの提案を同時に求めるという難しい課題ですが、今年も86件の優れた応募がありました。その中から4件が選ばれました。

善き未来の募集を始めた2019年の選考から、今回の4件の研究を加えての累計で、合計11件の善き未来への構想が選考されたこととなります。

具体的に今回採択された4件をご紹介します。研究内容の紹介は配布資料にありますので、簡潔に研究テーマのみをご紹介します。研究代表者の氏名のアイウエオ順です。

竹本研氏の「失われた脳機能を回復するオンデマンドなシナプス可塑性誘導技術」と題するものですが、この光照射を用いた技術により、たとえば認知機能の低下を回復することができ、より健康寿命を平均寿命に近づけることができるとするものです。

内藤俊雄氏の「光を蓄えて自由に持ち運べる未踏技術“光ストレージ”への挑戦」は、光のエネルギーを直接物質中に蓄え、後で必要な時に発光させられることができるような、新物質を見つけ出そうとするものです。光エネルギーを新しい形で利用できるようになるという革新的な提案です。

長谷純弘氏の研究は、「実験進化遺伝子マイニングによる作物デザイン情報基盤創出」です。世界の食料需要の増大の中、ストレス耐性作物の開発は重要です。ゲノム全体から有用遺伝子を発掘する新たな技術体系を構築しようとするものです。

三輪和久氏の「分断を生み出すメカニズム解明と克服のための教育プログラム開発」は、民意の分断、世代の分断、階層の分断など各種の分断を生み出すメカニズムを道德価値観の衝突という観点から解明し、教育実践プログラムを開発するという挑戦です。

以上いずれの研究も、未来に向けて、人類の個人と社会を巡るさまざまな課題の解決に大きくかかわる研究構想です。いま現在、社会のあり方に関して、SDGsの活動や幸福の概念などが話題になっていますが、採択されたこれらの研究は、さらに先の善き未来社会をつくりだす重要な科学技術基盤になるものと考えます。

さまざまな幅広い分野の研究課題を採択できたことに選考委員会として喜んでおります。もちろん、まったく新しい研究手法による挑戦、あるいは、これから研究実績をさらに積み上げようとする研究などが含まれていますので、選考委員会内での評価は実に多様でした。また、採択を逃した他の魅力的な提案もありました。最終的には、真摯な意見交換の末、既存の科学技術分野に縛られない、また既存の価値観に縛られない、独創的な視点を持つ研究提案であるという点などで一致し、この4件を採択するにいたしました。

コロナ禍がなかなか収まりません。この2年ほどは、選考された研究者同士、あるいは選考委員や財団関係者と交流することはとても難しい状況でした。これからは感染対策に配慮したうえで、議論する機会も増えてくるものと期待しています。

キヤノン財団の善き未来のプログラムは、初めに申し上げたように、3回にわたり選考された11件の研究テーマが進行することになります。このキヤノン財団の研究助成の下で、分野を超えた多様で重層的な研究の集積が生まれていると感じています。善き未来への貴重な知識と知恵の集積です。

採択された皆様の独創的な研究成果を期待しております。おめでとうございます。

ました。